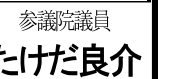




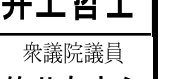
市議会議員  
**砂田喜昭**  
Tel 67-4322



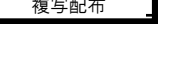
衆議院議員  
**藤野保史**



参議院議員  
**たけだ良介**



参議院議員  
**井上哲士**



衆議院議員  
**笠井あきら**  
禁無断転載  
複写配布

# 小さな旅 「鶴彬の足跡を訪ねて」

## 憲法をまもる小矢部の会

憲法をまもる小矢部の会のメンバー11名が10月14日、反戦・川柳作家、鶴彬の生誕の地、石川県かほく市高松を訪問しました。総本鶴彬の生涯 石川県の生んだ偉大な川柳作家』の著者・寺内徹乗氏をはじめ、石川県の鶴彬を顕彰する会』の方々が案内して下さいました。

## 反戦・川柳作家 鶴彬

はじめに訪れたのは高松歴史公園です。ここは加賀藩の関所が置かれた場所とのことです。

ここに鶴彬(本名 喜多一二(きたかつじ)の同級生が中心になって昭和48年(1973年)に建立した句碑 枯れ芝よ 団結をして 春を待つ』がありました(写真)。この句は、鶴彬が友人たちに宛てた年賀状に書いてあった川柳のことです。あの長く辛い戦争の時代、みんなが枯れ芝のように地面の下で手をつなぎ、団結して寒い冬を耐えながら、いつか平和で暖かい春が来ることを待ち望んでいる。そんな情景を川柳で詠んだものでした。」(総本 鶴彬の生涯』より)

かほく市高松の中心地にまちかど交流館があり、その3階が鶴彬資料室となっていました。階段の壁には鶴彬の川柳が写真とともに掲げられてあり、1句1句味わいながら資料室へ着きました。資料室には鶴彬の川柳や関連書籍、はがきなどが展示してあ



枯れ芝よ 団結をして 春を待つ

## 戦争に協力加担した教団の反省がある

浄土の先代住職は浄土真宗の教団はあの戦争に進んで協力してしまっただけで、そのことを真剣に反省していない。その罪滅ぼしにもならないが、鶴彬の墓を境内に設けた

ります。

鶴彬は1909年(明治42年)に、ここ高松村で5人兄弟の次男として生まれ、1924年(大正13年)15歳の時に北國新聞に川柳デビューしました。

戦前の日本が中国を侵略し満州事変、南京事件への突き進むもとで、鶴彬は反戦・川柳を発表しつづけてきました。治安維持法で3度も逮捕、虐待され、29歳の若さで手錠につながれたまま 赤痢で亡くなりました

## 墓碑のある浄専寺

鶴彬の墓碑は、資料室のすぐ近く、浄専寺にありました。ここで、少年の頃(ここ)でいろんなことを学んだそうです。



浄専寺の前庭にある鶴彬の墓碑

## 胎内の動き知る頃 骨がつき

平成20年(2008年)に建立された墓碑には 胎内の 動き知る頃 骨がつき』とありました(写真)。鶴彬資料室では川柳の募集や発表を続けていますが、この句に触れた女子中学生は、涙したそうです。



喜多家の前庭にある左の句碑を見る参加者



親鸞の教えを話す  
浄泉寺先代住職



可憐なる 母は私を 生まれました

と、私たち一行を迎えて話してくださいました。ちょうど報恩講が終わったばかりで、バラバラでいっしょに まるさんかくしかくのうた』を掲げて浄土真宗、親鸞の教えについて話しをされました(写真)。

## 鶴彬の生誕地 喜多家

鶴彬の生家もこの近くにあり、そこには可憐なる 母は私を 生まれました』との句碑がありました。鶴彬8歳の時に父が病死し、女手一つで子育ての難しかった時代、母が妹一人を連れて再婚したそうです。15歳の時に北國新聞に掲載された川柳の一つのことです(生家の写真と、その庭にあった句碑)。

憲法をまもる小矢部の会では2009年9月5日に、生誕百周年を記念してつくられた映画 鶴彬 ころの軌跡』を総合会館大ホールで上映しました。

安倍政権が憲法9条を変えて海外で戦争にできる国にしようとする狙っているとき、郷土が生んだ反戦・川柳作家の生き様から学ぶことが多いのではないのでしょうか。